

夏休み、自ら考え生き生きと行動する子 ～親子のコミュニケーションを大切に～



自ら考え行動する子を育てるためには、子どもの主体性を尊重し、自分で決めて行動する機会を増やすことが大切です。夏休みは子どもが自分で決めて行動する絶好の機会です。文部科学省は、これからの社会が予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれの思いを描く幸せを実現してほしいとメッセージを出しています。

子どもの成長には親子のコミュニケーションが大切であり、子どもの意見に耳を傾け尊重し受け止めることが重要です。実際にはとても難しいことです。

最近、小学校 1 年生と母親の会話を聞きました。1年生は癇癢を起こしたように泣き叫んでいました。すると、お母さんがどっしりと構えて、優しく「何をしてほしいの」と聞いている声がしました。少しすると、自分の思いを母親に話したのでしょうか。1年生は泣きやみ落ち着いたようです。このとき、母親が感情的に叱って黙らせたならば、親子のコミュニケーションにとってプラスにならないことは明らかです。冷静に話し子どもの声に耳を傾けるこの母親の対応は素晴らしく、子どもは納得したのではないのでしょうか。次の日には、さわやかな顔で登校する子を見かけました。

いつもは優しく子どもに接したいのに、感情的になると厳しい言葉を言ってしまう親もいるのではないのでしょうか。しかし、絶対に言ってはいけない言葉があります。子どもの人格を否定する言葉には気をつけたいものです。

- ・「なんどやってもできないなんてダメな子ね」
- ・「お兄ちゃん是可以るのに、なんでできないの」
- ・「あんたなんていなければよかったのに」
- ・「どうして迷惑ばかりかけるの!あんたってダメね」

当教育会館では、子どもにとって魅力的な夏の公益事業を実施しています。内容を親子で話し合い、子どもが関心を示す事業に参加してほしいと思います。夏休みは、新たな体験により子どもの目が輝くときです。